

I 調査について

(1)調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上を図るため、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析します。また、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ります。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や、学習状況の改善等に役立てます。
- これらの取組を通して、教育に関する継続的な検証・改善のサイクルを確立します。

(2)調査内容

- 教科に関する調査（国語、算数）
 - ・後の学年等の学習内容に影響を及ぼすことが考えられるため、身に付けておく必要がある知識・技能や、実生活において不可欠であり、常に活用できることが望ましい知識・技能等について調査します。
 - ・知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題の解決に向けて構想を立て、実践し、評価・改善する力等について調査します。
- 生活習慣や学習環境等に関する質問調査
 - ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等について調査します。

2 学校全体としての結果の概要

(1)教科に関する調査

○ 国語

・「話すこと・聞くこと」

話の内容が相手に伝わるように、理由や具体的な例を挙げながら、自分の考えを分かりやすく説明することができています。また、資料を活用するなどして、表現を工夫することができています。

・「読むこと」

読んで考えたことを、自分の経験と結び付けて考えることができています。一方で、目的に応じて、文章中から必要な情報を見付けることに課題が見られました。今後の読解の指導では、問題を解く際に、本文に戻って確かめる習慣を身に付けられるようにします。大切な部分に線を引いたり、前後の文章を確認したりしながら、必要な情報を正しく見付ける力を育てていきます。

・「書くこと」

文章全体の組み立てや流れを考え、筋道の通った文章を書くことができています。一方で、文章の内容を短くまとめ、指定された条件に合わせて書くことに課題が見られました。今後は、文章を書く前に内容や構成をメモしたり、書いた後に指定された条件に合っているかを確認したりすることで、問題の条件を正しく捉えて書く力を育てていきます。

・「言葉の特徴や使い方」

5年生までに学習した漢字を、文章の中で正しく使うことに課題が見られました。今後も、ドリル等を活用した繰り返し学習を行うとともに、漢字の意味や使い方と関連付けながら確実な定着を図っていきます。

○ 算数

・「数と計算」

異なる分母の分数の大きさをくらべ、その理由を数や言葉を使って説明することに課題が見られました。今後は、図や数直線を活用しながら、分数の大きさを具体的にイメージして捉える力を育てていきます。

・「図形」

直方体や立方体の特徴を理解し、公式を使って体積を求める方法を理解しています。

- ・「変化と関係」において、

百分率で表された割合から、全体の量を求めることができます。一方で、テープの長さをくらべ、「1.5倍」のような小数で表された割合を求めることに課題が見られました。今後は、線分図などを使って、数量の関係を目で見分けるようにするとともに、「もとにする量」「比べる量」を意識して考えることができるよう、繰り返し指導していきます。

- ・「データの活用」

二つの条件を組み合わせて読み取る表から、条件に合う数を見付けることに課題が見られました。今後は、一つの表をさまざまな視点から読み取る活動を増やし、問題で何を求められているのか問われていることを正しく判断し、必要な情報を整理する習慣を付けられるよう指導していきます。

(2) 生活習慣等に関する質問調査

- ・「学校生活について」

「自分には、よいところがある」「将来の夢や目標をもっている」「人が困っているときは進んで助ける」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」など、自己肯定感や他者を大切にす気持ちの高まりが見られます。また、「友達関係に満足している」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」等、前向きな気持ちで学校生活を送っていることがうかがえます。

- ・「授業について」

授業では、友達の考えを大切にし、協力して課題を解決したり、話し合いを通して自分の考えを深めたりすることができていると感じている児童が多くいます。今後も、友達と考えを伝え合い、学び合う活動を大切にし、児童一人一人が「分かった」「できた」と自覚できる授業づくりを進めていきます。

- ・「ICT機器の活用について」

文章やプレゼンテーションを作成したり、インターネットを使って必要な情報を集めたりする力が身に付いてきたと感じている児童が多くいます。今後も、ICTを効果的に活用した学習を進めていきます。

- ・「家庭学習について」

家庭で学習する時間や読書をする時間が十分ではないという課題が見られました。今後、家庭での生活リズムを見直し、予習、復習の大切さを伝えながら、計画的に家庭学習に取り組む習慣を身に付けられるよう指導していきます。